



教会という名の金庫室

FERDINANDO FREGA · GILLETTENARRATIVE · GILLETTEVATICANO · 07/17

今日、三人のイタリアの子どもたちのひとり、Francesco から電話がある。彼は言う。なあ父さん、いまこの瞬間、これまでのどの時よりも、あんたは本当に無一文だ。疑いようがない。

私は答える。おはよう、元気か。私は彼に、これがたぶん電話を始める最良のやり方だと言う。そして33年のあいだ、私は明らかに、別の人間にどう話しかけるかを教えるのに十分な時間をかけなかったのだと。

私はちょうど、息子は母親と強く結びついているという話を読んだところだった。X 因子は彼女から来る。そして知性について言えば、議論の余地はあまりない。それは期待を裏切らない。伝達において不可逆。自然の遺伝であるものは変えられない。

娘がいたことは慰めだった。そして私たちには互いに電話をかける理由がなかったのに——同じ家に住んでいたから——彼女はその同じ日に私に言った。私たちの会話は自分を落ち着かなくさせる、あの情緒的で共感的な衝撃がどこから来るのか分からない、と。

私は彼女に微笑んだ。それで十分だった。彼女は私の娘だった。説明は要らない。いくつかの事実は他のすべてに君臨する。

そしてそのとき私は、THE PHONE CALL OF JESUS という本を書いていたことを思い出した。私はそれを出版から取り下げていた。Amazon のチャットスレッドの中でそれを見つけたあとで。そこでは誰かが、AI がつくった本は一体いくらであるべきなのかと尋ねていた。

彼は自分の本のことを考えていた。およそ二千年前に書かれたもの。それは数十億部を売り、彼の印税は永遠のものになっていた。カトリック教会と呼ばれる金庫室の中に保管されて。

誰かがそれをこう改名したがっていた。AMAZURCH。

いちばん可笑しいのはこれだ。私たちが抱くあらゆる思考の中には、誰にも紹介したことのない私たちの一片がある。外側から私たちを見る人々は一瞬立ち止まり、私たちを見て、いつも同じ場所にたどり着く。

こいつは一体何者なんだ。

Ferdinando